木谷自治協議会広報紙

第　48 号　（隔月発行）
令和２（2020）年 12 月１日

豊潤の里だより

栗本H「漁協は大丈夫！」

～ 地権者への説明の中で強調、根拠は何? ～

いったい何が闇の中にあるのか。木谷自治協議会役員は１０月中旬、産廃処分場の建設計画地となっている地権者十数軒の皆さんに、事業者である栗本ホールディングス（以下栗本 H）に土地を売らないようお願いして回った。

その中のある地権者は、この処分場計画が持ち上がった当初から、ずっと疑問に思っていたことがあり、それを今回栗本Ｈに尋ねたそうだ。その疑問というのは、処分場ができたら、直接大きな被害（風評被害も含めて）が想定される漁協関係者はなぜ反対しないのか、というものだった。

栗本Ｈの営業部長は、「漁協は大丈夫です!!」と強調したそうだ。ここにきてのこの発言に、私たちが知りえない「大きな闇」の部分を感じる。３年前も木谷自治協役員への説明で栗本Ｈは「漁協は大丈夫」と言った（H２９年１月１２日営業部長）。そんなはずはないと思い、安芸津漁協の理事に尋ねた。理事会には一切相談はなく組合長が一人で判断し、栗本 H 関連業者が提示した同意書にハンコを押したとのこと。その経緯を組合長は理事会でこう説明した。

「木谷自治協会長の折河さんがハンコを押した文書と地権者１８名がハンコを押した同意書を業者から見せられたので、木谷は賛成だと判断し私はその同意書にハンコを押した。」

その後同意書の撤回は言明されたものの、同意書そのもののコピーも無く、何の同意書なのか本当のところは当事者同士しか知りえず、それ以上明らかになることはなかった。

万が一この同意書が産廃処分場建設を認める内容ものだったとしたら、今回栗本Ｈの営業部長が地権者に強調した「漁協は大丈夫!」の発言につながってくる。

栗本 H 関連業者が組合長に見せた２つの書類のうち、地権者が押印した文書なら、土地調査の同意書のことと考えられなくもないが、木谷自治協会長のハンコが押された文書は架空のものとしか考えられない。ましてや、それらの文書を組合長に見せた意図さえ不明だ。

その後漁協は総会で「産廃処分場建設反対」の決議をした。しかしながら今現在も栗本Ｈは、「漁協は大丈夫」と強気で言っている。大手企業の営業部長が全く根も葉もない事をでっちあげているとすれば大問題だし、漁協関係者との間で何か「密約」があるとすればさらに大問題だ。ことの真偽が問われる。栗本Ｈが「漁協は大丈夫」という根拠を漁協内で徹底的に明らかにすることが、処分場建設ストップの大きな一歩となると確信している。

疫病退散も祈願した秋祭り

１０月１７日・１８日は重松神社の例祭でした。新型コロナウィルスの感染拡大予防のため、大名行列などは中止となりましたが、それ以外は例年通り執り行われました。神事ではマスク等を着用した上で、木谷地域の繁栄を願い、家内安全・五穀豊穣と疫病退散を祈ったのち、厳かな雰囲気の中で木谷小学校の児童による巫女舞が奉納されました。

（コラム）歴史から知恵を学ぶ　第１話

元木谷自治協会長で安芸津町史の編纂にも携わった植野洋文さん（西之谷在住）が担当します

木谷村赤崎の入浜式塩田　天保12（1841）年の資料（安芸津町史資料編より）

塩田名	築調年	面積	ぬい数	取れ高（生産量）
二馬手塩田	元禄３（１６９０）年	７反２畝１５歩	１１９枚	５石８斗
二馬手塩田	元禄９（１６９６）年	９反９畝９歩	１１９枚	７石３斗８升４合勺
本江塩田	元禄６（１６９３）年	６反	７１枚	９石６斗
本江塩田	元禄６（１６９３）年	６反７畝	８０枚	８石７斗１升

※塩田の等級は３段階に分かれていた。二馬手塩田の方が本江塩田より規模（面積・ぬい数）は大きいのに、生産量は本江の方が上回っていた。生産性の高い低いは「撒砂（まきすな）」と「海水の塩分濃度」の影響が関係していると言われている。本江塩田は二馬手塩田より「撒砂」が良質で、海水の塩分濃度も濃かったのだと思われる。等級も本江が上位であった。

※「ぬい」　塩分を含んだ砂を集め、より塩分濃度の高い塩水を作るための施設のこと（沼井）

木谷村で塩づくりが始まったのは元禄初年の頃のことである。播磨藩赤穂から慶安３（１６５０）年に製塩技術を会得し発展した竹原塩田（広島藩では竹原が初）の影響を受けてのことであった。

元禄３（１６９０）年には二馬手地区、元禄６（１６９３）年には同じ赤崎の本江地区でも製塩が始まった。２４０年余りも続いたこれらの塩田は、昭和７（１９３２）年に廃業した。跡地は埋め立てられ（一部は当時の面影を残す）、大部分は馬鈴薯畑となり、他は農地になっている。

（写真）平成10年頃の「二馬手」「花山」「本江」地区の様子。モザイク模様の馬鈴薯畑が見える。

写真の数字①は本江塩田跡地、②は二馬手塩田跡地である。③は当時積荷の上げ下ろしで賑わった二馬手港の跡地である。昭和４０年頃にはここに堤防が築かれ、昔の面影はなくなったが、塩田への海水の取入口を守る石垣（樋袋）がわずかに往時を偲ばせる。

部会活動紹介

福祉生活部会

9/26 「ぐるマルフェスタ」で活動報告

「高齢になっても地域の中で安心して暮らせるまち（ぐるっとマルごと東広島）」を目指す市のイベントで日ごろの取組みを発表。タイトルは“つながる喜び・ひと時の楽しみを大切に”。

＜お茶の間カフェほぼろ島＞

10/19 木谷小の教育環境整備をお手伝い

子どもたちが一人１プランターで一生懸命育てるパンジーやビオラ。その花が春まで元気に咲き続けられるよう、９名が参加して肥料を混ぜた土をプランターに盛りました。

＜木谷地区社協 蛟龍＞

教育文化部会

木谷にもあった塩田

塩田の歴史を紹介する講座

１０／３１・１１／１の生涯学習フェスティバル（安芸津会場）で、市の教育委員会が「安芸津の塩田と製塩業の歴史」を紹介。

遺構周辺の環境を整備する活動

１０月、地元の方々が二馬手塩田遺構周辺の草刈りを行い、不法投棄物を回収しました。おかげでとてもきれいになりました。

＜２０２１年１月までの各部会の主な活動予定 ＞

福祉生活部会	12 月 1 日（日）	木谷小校内持久走大会支援　　＜木谷地区社協「蛟龍」＞
教育文化部会	1 月 26 日（火）	ものづくりふれあい集会

木谷の人口（住民基本台帳）	世帯数	人口（男女計）	男	女
令和 2 年 10 月末現在	696	1544	756	788
令和 1 年 10 月末との比較	＋7	－12	0	－12

編集：木谷自治協議会事務局　広報担当